



## 【 自分づくりを支える 】

副校長 安本 理恵

コロナ禍での学校生活は1月で4年目をむかえましたが、感染対策を講じながら仲間とともにいろいろな行事を行うことができつつあります。

本校の使命でもある研究実践として、公開授業研究会をオンラインにて12月10日から1月10日まで「6歳から20歳までの自分づくりを支える教育課程の創造」というテーマで3年間の研究をまとめた内容で行いました。自分づくりをする上で、小学部から専攻科までいくつかの節目があります。小学部下学年から高学年、小学部から中学部、中学部から高等部、高等部から社会人または専攻科と環境が変化する中で「悩み」「できるようになりたい」「やってみよう」という思いで、粘り強く挑戦し、できる自分となる過程があります。揺れ動く葛藤の中、自分で考え、工夫し、仲間とともに支え合う中で「できた」ことは「自分っていいな」につながります。本校は、「憧れ」や「やってみよう」につながるよう学部間での交流を大切にしています。小学部は、中学部にゲームのお店屋さんを招待された後、中学部をお店屋さんを招待しました。中学部を招待した日の小学部のお店屋さんは、とても意欲的でした。中学部は、小学部のお店屋さんを楽しんだ後、改良点などアドバイスを的確にする姿が見られました。12月には、中学部、高等部本科で卓球大会が行われ、中学部は先輩に勝ちたいという思いで練習に励んでいたようですが、僅差で高等部が総合優勝となりました。中学部と高等部本科とのピザ交流もなんとかでき、高等部のピザ焼き技術も高くなり、今までで一番おいしくできたようです。高等部本科、専攻科は、紅白歌合戦で交流し、専攻科が審査員となり、今年度は、赤白同点で大いに盛り上がりました。交流の一部を紹介しましたが、今後してみたいなあという児童・生徒・学生からのつぶやきから新たな交流計画もあがっています。

専攻科では、「創造」という学校設定教科があります。学生が自由な活動を自ら企画していき、集団的思考力と実践力を養います。しかし、いざ企画しようとするとなかなかアイデアが浮かばないものです。新しい文化の創造には、まず、種まきが重要です。多様な経験を積み重ねていく中でこれがしたいという思いや願いが生まれます。一人一人の自分づくりを支える多様な学びを大切に、内面の育ちを教職員、保護者、関係者と一緒に共有していきたいと思えます。

## 【 いろいろな紙袋であそぼう！ 】

小学部主事 谷本 純子

小学部で大切にしていることの一つとして「遊び」が挙げられます。自分らしく自己を発揮しながら夢中で遊びこみ、夢中で遊びきることができる「遊び」は、実感を伴った豊かな経験を積み重ねることができると考え、生活単元学習の中で年間を通して「遊び」を題材にした単元を設定して取り組んでいます。

11月後半から12月前半、小学部の子どもたち全員と一緒に、プレイルームでたくさんの紙袋を使って遊びました。初日は、どう遊んだらいいのかな？と困っている様子も見られましたが、回数を重ねるうちに、自分たちで様々な工夫をして遊んでいきました。いろいろな大きさの紙袋を組み合わせて服のように着る、きれいに立てて並べて家を作る、小さくちぎって温泉のようにする、箱と組み合わせて動物を作る、食品トレーに盛り付けてデリバリーをする、ペンで模様を描きオリジナル紙袋を作る等、発想力・想像力があふれていました。活動を通して、自分を大切にする姿だけでなく、友だちの様子を興味深そうに見たり友だちと協力したりする姿も多く見られました。

2月にも、同じく紙袋で遊ぶ単元を計画しています。子どもたちがキラキラと輝きながら遊ぶ姿を想像して、いろいろな紙袋が宝物のように見えてしまう小学部です。



## 【 レッツ鳥取じまんパート2～湖山池の巻～ 】

中学部主事 三橋 朋子

中学部では毎年、生活単元学習「レッツ鳥取じまん」で鳥取の伝統芸能や工芸、自然、それに関わる人々の思いをインタビューや制作、体験的实践等を通して調べ学習を行っています。今年度は、学校の近くにある「湖山池」に焦点をあて、湖山池に関する歴史を調べる「歴史ハンター」、地球の誕生や、山陰海岸ジオパーク等について調べる「ザ・世界ジオパークスターズ」、湖山池の観光地や生き物等について調べる「山陰ジオパーク湖山池PR隊」の3つの縦割りグループに分かれて学習に取り組みました。湖山池交流プラザに校外学習へ行ったり、博物館や鳥取大学の方から資料を集めたり、お話を聞いたりしながら調べ学習を進めて行きました。仲間と一緒に目を輝かせながら、活動に取り組む生徒たちの姿が印象的でした。そして、自分たちが調べた「湖山池」について、たくさんの人たちに「教えたい。」「伝えたい。」「知らせたい。」という生徒たちからの声を受け、12月8日に「鳥取じまん展」を開催しました。保護者の皆様、他学部の生徒をはじめ、たくさんの方々に自分たちが調べてきたものをしっかりと伝えることができました。

5週間という長い単元でしたが、振り返りの会で見られた生徒たちのやり切った表情から仲間と学習する楽しさ、達成感・成就感を味わうことができました。

学習の成果物は、2月10日から23日まで鳥取県立図書館に展示予定です。



## 【 専攻科研修旅行 】

高等部専攻科主事 宮脇 祥子

12月21日(水)から23日(金)まで京都・大阪方面へ研修旅行に出かけました。専攻科の研修旅行は、他県の専攻科生との交流がメインですが、交流が既に終わっていること、コロナ禍であること等の諸事情につき、往復は高等部本科と合同で貸切りバスを利用して出かけました。

1日目は、あべのハルカス、新世界周辺、清水寺を回りました。新世界では、串カツやたこ焼きを食べ、大阪グルメを味わいました。また、清水寺の音羽の滝では、どのご利益を得ようか考え、水をいただきました。専攻科生には「延命長寿」の水が人気でした。

2日目は、「金閣寺は本当に金なのか」を確かめるため、金閣寺に行きました。目の前できらきらと輝く金閣寺を見て、「やはり金だった。」と納得しました。その後は、USJへ出かけ、思い思いにアトラクションを楽しみました。

3日目は、なんば花月で生のお笑いを楽しみました。漫才や新喜劇、目の前でテンポよく繰り広げられるお笑い、涙を流しながら笑っている学生もいて、本物のすごさを実感しました。

例年とは違う形の研修旅行でしたが、ホテルの部屋をシングルで利用したり、自分たちで行き方を調べて行ったり、分からない時は現地の人に尋ねたり、自分で時間やお金の管理をしたりするなど、専攻科生としての学びも深めることができた旅行となりました。

